

⑫ 実用新案公報 (Y 2) 昭 59-20460

⑤ Int.Cl.³

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公告 昭和 59 年 (1984) 6 月 14 日

E 03 B 7/07

6654-2 D

(全 4 頁)

1

2

⑤ 量水器保護カバー

② 実 願 昭 57-35339

③ 出 願 昭 57 (1982) 3 月 13 日

④ 公 開 昭 58-140272

⑤ 昭 58 (1983) 9 月 21 日

⑦ 考 案 者 坂田 光成

福岡県八女郡広川町大字六田 274
番地の 2

⑦ 考 案 者 平田 清

福岡県三井郡大刀洗町今 832 番地

⑦ 考 案 者 東久保 薫

筑紫野市大字原田 2320 番地

⑦ 出 願 人 九州積水工業株式会社

大阪市北区中之島三丁目 6 番 32 号

⑦ 代 理 人 弁理士 綾田 正道 外 1 名

⑥ 実用新案登録請求の範囲

量水器を収納させる収納部 1 a 及び止水栓を収
納させる収納部 1 a', 1 a' を有する 2 分割構造の
下型 1, 1 と、同下型 1, 1 を外側からの被覆により
面合固定させるための外覆体 2 と、同外覆体 2 の
上部に着脱可能に嵌合させた上蓋 3 と、前記下型
1, 1 及び外覆体 2 の給水管挿通開口部 1 b, 1
c, 2 a に嵌装した側面形状が L 字状の閉塞部材
片 4, 4 とから成り、全体素材として発泡体を用い
ると共に前記部材片 4, 4 の一側面開口により給水
管の水平又は垂直のいずれかの配管方向にでも対
応して取着できるように構成したことを特徴とし
る量水器保護カバー。

考案の詳細な説明

本案は、ビル等に設置されている量水器を断熱
保護し、凍結による破壊を防止する目的に供され
る量水器保護カバーに関する。

従来、量水器保護カバーとしては、特公昭 56-
19419 号公報記載の量水器保護カバーが知られて

いるもので、構成的には水平方向のみに給水管挿
通のための開口部が形成された構造のものであつ
た。

従つて、従来の量水器保護カバーは、給水管の一
方又は両方が垂直に配管されている量水器にはカ
バー取着ができない欠点を有するものであつた。

本案は、上述のような従来構造の量水器保護カ
バーを有する欠点を解消せんとされたもので、
給水管の配管方向が水平又は垂直のいずれであつ
てもカバー取着ができ、かつ量水器及び止水栓の
保護効果も高い量水器保護カバーを提供するもの
である。

すなわち、本考案は、量水器を収納させる収納部
1 a 及び止水栓を収納させる収納部 1 a', 1 a' を
有する 2 分割構造の下型 1, 1 と、同下型 1, 1 を外
側からの被覆により面合固定させるための外覆体
2 と、同外覆体 2 の上部に着脱可能に嵌合させた
上蓋 3 と、前記下型 1, 1 及び外覆体 2 の給水管挿
通開口部 1 b, 1 c, 2 a に嵌装した側面形状が
L 字状の閉塞部材片 4, 4 とから成り、全体素材と
して発泡体を用いると共に前記部材片 4, 4 の一側
面開口により給水管の水平又は垂直のいずれの配
管方向にでも対応して取着できるように構成した
ことを特徴とするものである。

次に、本案を図示する実施一例により説明する。
第 1 図は本案カバーの斜視図であつて、1 は下型、
2 は外覆体、3 は上蓋、4 は閉塞部材片である。第 2
図は閉塞部材片 4 の斜視図であつて、同形の舌片
を直交状態に接続したような側面形状が L 字状の
構成とし、頂部には係止片 4 a, 4 a を形成すると
共に側面全周を嵌合テーパ面 4 b に形成すること
で下型 1, 1 及び外覆体 2 への嵌装構造としてい
る。尚、4 c は給水管挿通位置を示す目印であつ
て、各種の管径や管位置を想定して切除する個所
を示すことで、切除作業を容易に行なうことがで
きるものである。

第 3 図は本案カバーの長手方向中央縦断面図で

3

4

あつて、1は量水器Mを収納させる収納部1a及び止水栓N、Nを収納させる収納部1a'、1a'を有する2分割構造の下型で、斜め破線で示す部分は2つの下型1,1を合せた際の面合部分を示すものである。また、2は前記下型1,1を外側からの被覆により面合固定させる外覆体、3は同外覆体2の上部に着脱自在に嵌合させた開閉取手3aを有する上蓋、4,4は前記下型1,1及び外覆体2の給水管挿通用開口部1b,1c,2aに嵌装した側面形状がL字状の閉塞部材片である。尚、図中Sで示すものは水平給水管、Vは垂直給水管である。

第4図は第3図A—A線による断面図であつて、2分割構造の下型1,1と、同下型1,1を面合固定するための外覆体2と、同外覆体2に嵌合させた上蓋3と、前記下型1,1に嵌装した状態の閉塞部材片4とが示されている。

第5図は第3図B—B線による断面図であつて、下型1,1の面合位置ぎめのための嵌合突条1d及び嵌合凹条1eがあらわれている。

次に、一実施例の本案カバーを使用して水平給水管S、Sに設置した量水器M及び止水栓N、Nにカバー取着をする際について説明すると、第6図に示すように、まず量水器M及びN、Nを横方向から挟み込むようにして下型1,1を嵌め合せ、次いで閉塞部材片4,4の給水管挿通部をナイフ等で切除開口して下型1,1に挿入嵌合し、その後、外覆体2を下型1,1の上方から挿入被覆させ、最後に外覆体2の上部に上蓋3を嵌合させればカバー取着ができるものである。

つまり、水平給水管S、Sに対しては閉塞部材片4,4の一部を切除開口して挿通部を形成するだけで、上蓋3を除く下型1,1、外覆体2及び閉塞部材片4,4は一体に嵌合状態で組み立て取着され、上蓋3は検針や止水栓開閉等の必要から着脱可能に嵌合できるものである。

次に、垂直給水管V、Vに設置した量水器M及び止水栓N、Nにカバー取着をする際について説明すると、第7図に示すように、取着手順は前述同様であり、単に垂直給水管V、Vが挿通する閉塞部材片4,4の一部をナイフ等で切除開口すればよいも

のである。

尚、図示していないが一方が水平給水管で他方が垂直給水管に取付けられた量水器及び止水栓であつても、前記同様に閉塞部材片の給水管挿通部を切除開口すればカバー取着ができるものである。

以上、本考案カバーを図示する実施一例について説明してきたものであるが、具体的な各構成については同一例に限定されるものではない。

また、本案カバーの素材としては、ポリエチレン発泡体、ウレタン樹脂発泡体、スチロール樹脂発泡体、ポリエチレン・スチロール樹脂の混合発泡体、フェノール樹脂発泡体、ユリア樹脂発泡体、グラスウールゴム発泡体など断熱効果を有する各種の発泡体を採用できるものである。

以上、本案カバーは上述のように、閉塞部材片を嵌装する構成としたものであるために、給水管が水平又は垂直のいずれの配管方向であつてもこれに対応してカバー取着ができる効果を有するし、さらにカバー取着状態では開口部分のない完全閉鎖状態となるために量水器及び止水栓とこれらを接続する継手の断熱保護効果も高いものである。

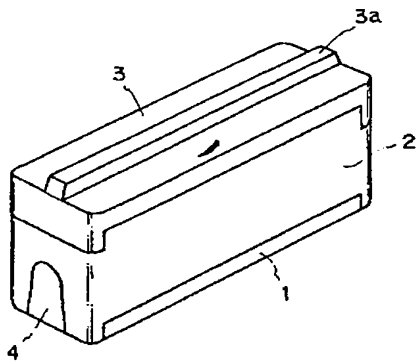
また、下型には量水器と止水栓の収納部を形成しているために両者が隣接した位置に設置されている配管系統の量水器及び止水栓の保護には最適なものである。

図面の簡単な説明

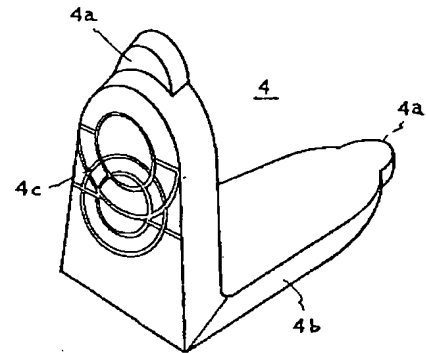
第1図は本案の量水器保護カバーの実施一例を示す斜視図、第2図は同一例の閉塞部材片を示す斜視図、第3図は同一例の長手方向中央縦断面図、第4図は第3図A—A線による縦断面図、第5図は第3図B—B線による縦断面図、第6図は同一例を使用して水平配管の量水器及び止水栓へカバー取着する手順を説明する斜視図、第7図は同一例を使用して垂直配管の量水器及び止水栓へカバー取着する手順を説明する斜視図である。

1……下型、1a,1a'……収納部、2……外覆体、3……上蓋、1b,1c,2a……給水管挿通用開口部、4……閉塞部材片。

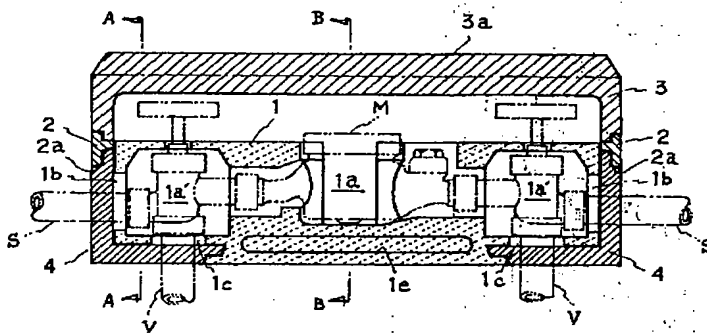
第1図



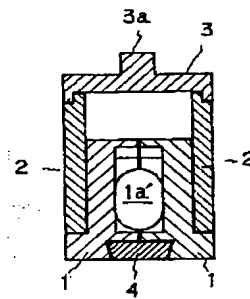
第2図



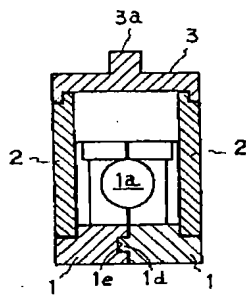
第3図



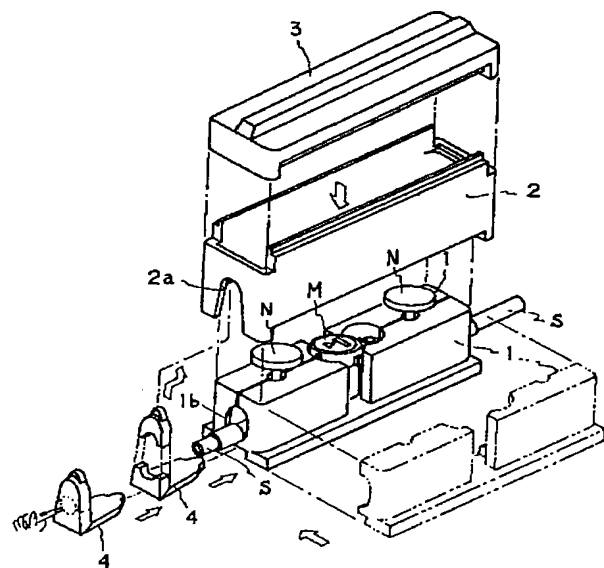
第4図



第5図



第6図



第7図

